

# 健康福祉部会 会議録

（出席者） 委員：8名  
事務局：4名（戦略部会員：3名、政策推進課：1名）  
アドバイザー：1名  
ファシリテーター：1名

（会議の内容）

## 1. はじめに

資料 1 に基づき、第 6 回まちづくり市民会議（第 5 回部会）の会議録について内容を確認し、公表に当たっての承認を得ました。

資料 2 に基づき、第 7 回まちづくり市民会議の検討の進め方について事務局から説明しました。

## 2. 報告事項

資料 3 に基づき、総合計画の改定状況について事務局から説明しました。

資料 4 に基づき、幸福度の設定について事務局から説明しました。

## 3. 検討事項

資料 5 に基づき、「市民会議からの提案（重点的に取組んでほしいもの）について」「市民協働モデル事業について」「分野別の計画素案について」事務局から説明し、検討を行いました。（検討の内容は次ページ以降に掲載。）

## 4. アドバイザー総括

本日の会議についての総括を行っていただきました。（内容は次ページ以降に掲載。）

## 5. その他

今回の会議は全体会となるため、市民会議幹事のスケジュール調整により後日決定すること、全体会では市民会議幹事からの「市民会議からの提案（重点的に取組んでほしいもの）について」「市民協働モデル事業について」の 2 つについて発表を行うことを報告しました。

各委員に、ふり返しシートを配布し、会議後 1 週間を期限に、提出をお願いしました。

<報告事項について>

【委員】

幸福度を感じるとは、その人の欲求と充足度がどれくらい満たされているかにあらわれてくると思う。欲求というのは、関心をもつことから始まるため、市民が健康や環境に対してどういった考えを持っているかが重要だと思う。住民意識を高めることが重要であるし、関心をもたせる仕掛けも必要だと思う。

【委員】

幸福度について、サブテーマの話にもあったが、主観的にとらえるか、客観的にとらえるかで個人差がある。幸福という言葉を入れる必要があるのか疑問に思う。基本分野のなかに、幸福度を比較した表があるが、通り一遍に見てしまえば、あれもこれも当てはまるようにみられる。しかし、そもそも幸福度の指標は、それぞれの国によって目指す目的が違う。市民意識調査で同様の設問を設定し、検討して活用するとなっているが、今の田原市の市民意識調査をみると、分野によって地域差が大きい。ある特定の地域だけ意識が高かったり、低かったり、回答している年齢も地域によって違う。幸福度の指標は簡単にだされるものではない。研究も進んでいない。大学の専門の研究分野の先生も交えて、積極的に改訂を繰り返すことが前提での指標だったらいいが、ただみんなが幸せだったらいいよねという感覚で入れるのでは、何のためにある計画なのかなと思う。今後の検討課題ということを行政がよくわかった上で計画に載せて欲しい。

【事務局】

交通の面や地域のコミュニティも、半島の先端の部分と中心部とでは格差がある。貴重な意見だと思う。全体会議にも持って行きたいと思う。

【事務局】

より田原市にあったものとして、検討を進めていく方向性で行きたいと思う。

【アドバイザー】

できるだけ幸福というのを、他の国でやっているものを持ってくるのではなくて、はじめから田原市に合わせたものをつくるのが一番早いと思う。幸福という言葉は人それぞれなので、もう少し言葉を変えるなり、目指す観点を変えて、例えば「安心安全」などにすればイメージしやすいと思う。具体的な指標をつくり、オリジナリティのあるもの、他が真似するような指標になればいいと思う。

また、サブテーマは、将来都市像がぼんやりとしているので、もう少し具体的なことを書いた方がわかりやすいと思う。

**【委員】**

視覚的にみると、後半に漢字がたくさんあり、重い。「幸福」が「しあわせ」になるだけでも違う。この漢字の多さはどうかと思う。押し付けられているような感じがする。

**【委員】**

資料3の2枚目にある、施策の大綱の健康分野の①から⑦にある「障害者」の「害」が漢字になっている。どのように考えているのか。

**【事務局】**

法律などの条文以外、一般に現場ではひらがなを使っている。

**【委員】**

これは法律ではないので、ひらがなでいいと思う。

**<検討事項について>**

**【委員】**

主要プランの2つ目「★「健康寿命」の延伸に向けた健康づくり活動の活性化」の関連する基本事業として、「成人保健の推進」や「健康づくりの推進」となっている。国は、特定健診、いわゆるメタボ健診により、特定保健指導等を行い、5年間のうちに成果を出すという指針を出している。それについて、田原市の現状・課題をどのように認識しているのか。まず特定健診について説明をお願いしたい。

**【事務局】**

特定健診は、資料5ページ「施策2-2 医療の充実」に入ってくる。特定健診とは40歳以上75歳未満を対象に、生活習慣病に着目して、平成20年から実施されることになった健診である。全ての保険者が数値目標を掲げ、5年間で成果をだすことを目標としたが、多くの保険者であまり達成していない状況である。リスクが高い人は、特定保健指導を受診してもらうことになっているが、そこもあまり受診率が良くない状況にある。

田原市においても資料6ページの目標指標をみると、特定健康診査実施率が平成18年に40.6%が平成23年に44.9%となっている。全国一律で65%を目標とされていたが、なかなか達成まで至っていないのが現状である。

**【委員】**

目標指標の中に改善率もあった。保健指導実施率が45%で、メタボ健診でひっかかった人を保健指導することによる改善率が10%、10人に一人は改善させるというものである。私の感覚でいうと、とても厳しい目標を掲げられていた。田原市の課題としては認識しているということではないか。

**【委員】**

これからは、いかにボランティア意識を高めていくかだと思う。私の所はケアハウスで、自立したお年寄りが一人ひとりそれぞれの部屋で生活しているが、テレビがうつらない、洗濯機がまわらないなど、困った事があると全て職員が対応している。施設だから対応してもらえるが、これから一般の方も困る事が増えると思う。昔の地域での助け合いが薄らいでいる。これからみんな意識を高めていければいいと痛切に感じている。

**【委員】**

主要プランとしてはいいと思う。特定健診について、私は体験した一人である。指導を受ければそれなりに改善していくと思う。

**【委員】**

主要プランの4つのテーマに問題は無いと思う。しかし「地域で支援や見守りが必要な人」という言葉が気になる。神経質になりすぎるのかもしれないが、どんな人でも暮らしやすい環境を目指すのであれば、支援する人、見守られる人というようなとらえ方は、ふさわしくないと思う。地域には見守りが必要な家庭が増えているのは確かだが、もっと良いイメージを抱かせるようにした方がいいと思う。

また、「施策2-5 障害者福祉の充実」の目指す姿にある文章では、「地域の自立した生活を送るための環境を整えます」となっているが、主要プランの方は、「支援する」「支援される」と表現している。逆ではないだろうか。内容としては問題ないと思うが。

**【委員】**

私の家にも年寄りがいるが、新しい機械が入ってもなかなか使いこなせない。使い方を嫁には聞きづらいこともあると思う。そういった時、年寄りが聴き易い応援隊があると良いと思う。

**【委員】**

関わったものは反映していると思う。「見守り」とはどういうことか、具体的な行動がイメージできる言葉を盛り込んだほうが、関心を持ってもらえると思う。

ボランティアというと無償で大変な感じがするが、まだまだ年配の方でも、ハンディのある方、一人暮らしの方と時間を一緒に過ごし、話をすることで、お互いの心がホッとすることができる。心をうちとける時間を具体的な方法で示していけば長続きする。気軽に参加出来る具体的な設定をしないと、なかなか一般の方は自分からは難しいと思う。

**【委員】**

主要プラン「★医療体制の強化」というところで、文面だけをみていくと、「産婦人科、小児科や精神科等が不足しており」とあり、「病診連携を強化する」とあるが、それで解決するものなのか、難しい問題である。お金で解決する問題でもない。市からの補助が無いとやっていけない状況である。また、他の文面と比べて少しフォントが小さいことも気になった。解決しようという

前向きな文章でないのが気になる。

**【委員】**

高齢者の立場から意見を言う。最後は誰に世話をしてもらおうかという話になったとき、配偶者にみてもらうか、自分の子どもにみてもらうか、施設に入るかという選択となる。施設はお金がなくは入れないし、年金だけでは入れない。私は今一人であるが、幸福よりも、生活が不自由になった時、施設に入ることができるのか、不安である。

**【委員】**

やはり切実な意見だと思う。私は介護保険の分野の仕事をしている。国の流れとしては、施設を建設していくのは限界がきている。なぜかという、介護保険がパンク状態だからである。地域で支えるため、近所のおせっかいを要請して、介護保険制度のヘルパーも削っていこうという流れになっている。結局、高齢化社会になることは100%決まっているが、金も物も足りない。そうすると人となる。日本国中で住宅を密集させ効率良くする流れである。有料老人ホームも田原市に建設されている。国はいろいろな施策をしてきたが、成功していないので、どうなるかわからない。答えになっていないが、必死になって考えているとは思う。

**【委員】**

重複するが、私も主要プランの一つ目「★地域で支援や見守りが必要な人への対応の充実」について、これは課題であって、負の要素のイメージがある。お荷物の印象がある。伝えたいことは、そういった人も地域でいつまでも生活できるというイメージが大事だと思う。「いつまでも地域で生活できるまちづくり」など、困ったことをお手伝いするという内容の文章にすると素敵だと思う。

**【委員】**

一つ目の主要プランに「発達障がい、精神障がいなどの、周囲から理解されにくい障がいのある人が増加しています」とあるが、本当に増加しているのか。たまたま制度として掲げただけなのか。

**【事務局】**

昔からあったが、認知がされていなかっただけということもある。

**【委員】**

「理解されにくい障害」という表現はおかしい。また「ボランティア意識を高める」という表現も、今までボランティアをしてきた方に対してはおかしい。ボランティアをやっていない人も、みんなが地域でという意味合いを強調してほしい。見出しの「対応の充実」という表現も気になる。

**【委員】**

みんなが年老いていくものなので、若い人も、お互いに地域で気にしあってという表現の文章であればいいと思う。

**【委員】**

不安を解消できると感じられる文章であればいい。障がいの方も同じだと思う。今は負の要素が大きい。対応するよ、という文章になっている。

**【事務局】**

いいフレーズがあれば出して欲しい。

**【アドバイザー】**

「支え合う」などの言葉の方がいい。

**【委員】**

「共助」の方になるのか。「自助」もあるが。

**【事務局】**

意見をまとめると、次回全体会で部会の意見として発表するためには、もう少し主要プラン 1 番目のところをポジティブな表現にする必要がある。キーワードとしては「支え合う」「共助」「いつまでも地域の一員でいられる」「不安がない」などになる。

**【委員】**

遠慮せずに発信できることが大事である。一人暮らしでも、近所から声が気軽にかかるとう安心できる。

**【委員】**

ボランティアという名目をたてるよりも、ご近所のおせっかいを増やすことでも良いと思う。

**【事務局】**

具体的に見える事例も入れながらの方がいいのか。主要プラン 1 番目の修正としては、障がいの者の認識の修正、ボランティアを幅広く参加してもらうことを入れるなどがある。主要プランの 2 番目、3 番目はどうか。

**【アドバイザー】**

主要プラン 2 番目で、「心身の健康づくり」とあるが、身体活動量を増加させる言葉に置き換えられないか。健康づくりとは、食べる、運動する、寝ることなどが関わるので、具体的に運動をするという意味合いがあった方がいいと思う。

3 番目「医療体制の強化」で、奨学金制度等の田原市で医者を養成するようなサポート体制があればいいと思う。

**【委員】**

奨学金制度は、10年の計画期間中には終わってしまうのではないか。

**【アドバイザー】**

掲載しておけば次につながることもある。

**【事務局】**

医療体制のところは、フォントを大きくし、医師の確保を含めると表現を入れることでいいか。

**【委員】**

「医師の不足」は計画書に入れるのか。現実に課題であるのは確かだが、10年間計画書にのることを考えるとどうか。また、主要プランの2番目「子育ての支援の強化」も、働いているお母さんしか支援しないように読める。「施策 2-4 児童福祉の充実」では、子育てに関する環境が変化しているためとなっている。

**【事務局】**

子育てをしながらも働きたいお母さんがいるということで、このようになった。「働きながら」という文言をはずすか、「全ての子育て世帯」というような表現にするか。また、「働きながらも」とするなどである。

**【委員】**

「医師の不足」も、いいかえるとしたら、「充足させる」などの表現となる。

**【アドバイザー】**

「より充実させる」などである。

**【委員】**

10年原文のままと考え、どうか。

**【委員】**

対応してほしいことではあるが、ここに載せることではないように思う。

**【事務局】**

最終的に統一させるのは末尾や文字統一で、課題と解決策という構成を全ての課で統一させる必要はない。

**【事務局】**

29日に、健康福祉部の意見交換がある。今の意見、ネガティブなイメージにならない表現にな

るように構成を考えてみたいと思う。

**【事務局】**

こうあるといいという提示を出していくイメージである。対象を限定せず、狭めず、幅広くとらえる文章に修正していく。

**<市民協働モデル事業>**

**【委員】**

取組内容と役割分担のところ、「事前に徘徊高齢者や障がい者の情報を事前に登録し」とあるが、これは管理的な要素を伝えてしまう。障がい者手帳を持っている人は全員登録しなければならないという危機感が伝わる。「徘徊高齢者」という言葉にも違和感がある。行方不明になった時、すぐ発見できるという表現でいいのではないか。登録は基本的に申請制ということを明確にする必要がある。

**【事務局】**

「希望する高齢者や障がい者の家族が情報を登録」という表現でいいか。

**【委員】**

田原市では、まだ行方不明になった方の名前を出していない。名前をすぐに伝えて、近隣のみなさんの協力を得ている他の自治体もある。

**【事務局】**

今後、ネットワークを作る上で、検索に対し自発的な意識がある人に情報提供するというやり方もある。同報無線で流すと、検索に対して無関心の方にも情報が流れてしまう。検索に協力すると申し出ていただいた方に、具体的に名前を出すというやり方があると思う。たまたま田原市においては、同報無線があり、また特定の目的をもった人が登録するメールサービスなども既にあるので、活用していきながら、考えたい。

**【委員】**

内容や言い回しは検討してもらおうとして、今後この分科会としての関わりはどうか。後はおまかせとなるのか。細かい内容、役割はどうか。

**【事務局】**

事業担当課が構築していくことになる。市民まちづくり会議の構成員というよりは、それぞれの関わりの中かで、市民として一個人として登録の協力をしてもらいたい。

**【委員】**



福祉課が主体で登録は始まっているが、具体的な内容がみえてこない。登録はしているが、具体的に検索となった場合、どのようにしていくのかわからない。

**【事務局】**

市民と協働するにあたってモデル事業となる位置づけとなっている。市民と行政、それぞれの立場で取り組んでいく事業としたい。

**【委員】**

「取組内容と役割分担」の2行目に「福祉事業者」とあるが、「福祉」とつける必要があるのか。福祉以外の事業者も入るのではないか。

「目指す姿」では、「徘徊高齢者の早期発見～」となっているが、「プロジェクトの目的」には「行方不明になった徘徊高齢者等～」となっている。主語に障がい者も含まれるのなら、「高齢者と障がい者が行方不明になった～」という文言にするべきであると思う。

また、「目指す姿」で、最後に「安心して暮らすことができるようになります。」とあるが、どこまで目指すのか、もう少し明確にした方がいいのではないか。地域の活力につながることも目指すなど、先程、地域力も上がることが理想とも言われていた。

**【委員】**

広報を見ない方もいる。当事者本人達が情報を登録するにも、方法がわからない人がいる。制度自体をわかりやすく知らせる場面があると良いと思った。

**【委員】**

一般市民がもっと気軽に福祉に関われるように、紙面だけではない方法の方が、浸透していくと思う。具体的な提案・周知をお願いしたい。

**【委員】**

「取組内容と役割分担」の一行目「事前に徘徊高齢や障がい者等の情報を登録し、」とあるが、これは削除し、「行方不明者が発生した場合、」からにした方がいいと思う。その下の「個人」のところで「当事者家族による積極的な情報の提供」とあり、行方不明になる前であろうと、後であろうと、積極的に提供してくれるのであれば、「提供」という表現だけでいいと思う。

また、「協力機関」と表現するのも、限定しているようなイメージがある。「協力機関（福祉事業者、自治会やその他地域団体等）」は削除し、「警察、行政、地域包括支援センターだけでなく、事業者、自治会～」とした方がオープンになる。いつでも協力でき、忙しい時はやれないができるときは参加するという感じになる。

**【事務局】**

役所が対応すると「等」を多用してしまう。今の意見は並列になっていい。

**【委員】**

マイクで行方不明者の方を放送しても、遠くの方だと自分には関係ないから出ない。放送が入っても外にわざわざ出て見にいかない。この地域の方で行方不明者が出たら、この範囲で登録されている人に協力して探すということができれば、いいと思う。

#### 【事務局】

例えば、放送が入った時、買い物途中で行方不明者を見かけたら連絡するという、ゆるやかな検索と、本格的に検索する人とがいていいと思う。私も検索に関わったことがあるが、お年寄りでも行動範囲が驚くほど広がる場合がある。公共交通機関が比較的発達していない田原市でも、中心部の方だと電車に乗れば市内にとどまらない可能性もある。できるだけ広い範囲の方に関わってもらいたい。ここには具体的にはないが、今後事業化で進めていく場合、視察で得た知識も提案していきたい。

#### 【委員】

キーワードとして「行方不明ゼロを目指す」というのをどこかに入れてもいいと思う。先ほど「取組内容と役割分担」で、「事前に徘徊高齢者や障がい者等の情報を登録し、」までを削る意見が出た。私も同じ意見であるが、市の制度として今年の4月からスタートしたので、アピールしたい面もある。文章をつくと、「希望者は事前に特徴などの登録を受け付け」など、自主性を前面にアピールすればいいと思う。「徘徊高齢者や障がい者」という文言は、上の部分で網羅しているので、なくても内容はわかると思う。

「目指す姿」で、地域の連携、一体感もでてくると良いと思う。災害時の救出、検索も想定される。「地域の連携感、一体感を高めます」などを入れてもいいと思う。

#### 【事務局】

今回の登録制度の中で、日常の支え合いも視点にある。登録してもらうことにより、例えば独居の方は、災害の時でも、地域で特定の人からの情報提供があり、警察などにも情報が提供されていると、普段からの見守り体制も高まる。単純な検索だけの話ではない。

#### 【委員】

要援護者の名簿づくりをしなさいという国の打診もある。ただ個人情報という問題もある。希望者が登録をするのであれば、個人情報の問題はクリアできると思う。

#### 【事務局】

修正内容として、「プロジェクトの目的」「現状・課題」はこのままで、「取組内容と役割分担」の冒頭は、希望者の登録であることをPRして含めることと、1行目の最後から2行目にかけての支援機関の部分のカッコを外し、事業者などを幅広く捉えることができるようにする。行政の役割にある「ネットワークに関する市民への周知と広報」は、もう少し分りやすく制度全体を周知することを入れる。

「目指す姿」は、最終的に地域力、一体感や連帯意識の醸成へとつなげる。冒頭の「徘徊高齢者の早期発見ができる体制」という文言は、目的のところと用語の統一を図り修正するというこ

とでいいか。

**【アドバイザー】**

「取組内容と役割分担」で、個人には見守りの内容が入っているが、地域や団体にはない。地域や団体にもその役割はあったはずである。

**【事務局】**

地域、団体の役割にも、見守りの内容を追加する。

**<分野別計画>**

**【アドバイザー】**

4 ページ、「健康づくりの推進」とあるが、「健康づくり」では広すぎるので、「身体活動量」など、具体的なものを含めてもらいたい。

**【委員】**

8 ページ「施策 2-3 地域福祉の充実」の「現状・課題」の中に「ホームヘルパーの研修なども行っていますが」とあるが、ヘルパー2 級講座のことを指しているのなら、今年度で終了してしまう。基礎研修も行うが、専門学校が行うのか、わからない。おおまかに要請ではなく、研修ならいいのではないか。

**【事務局】**

担当課と調整をしていく。

**【委員】**

15 ページの、基本事業「高齢者施設の充実」の主な事務事業に「老人保護措置費支給事業」がある。実際に、介護保険適用の老人ホームでも対応されるのか。今まで制度はあるものの、対応されたことがない。事業としてのせるのなら対応してほしい。例えば「養護」だったら適用できるのかというところである。

**【事務局】**

気づいた点があれば、振り返りシートに資料番号、ページ数を記入して、表記して頂ければと思う

## ＜アドバイザー総括＞

### 【アドバイザー】

やはり、私達が半年かけて考えてきたことなので、みんな思いれがすごくあると感じる。今回の主要プランをみても、やっていかなければいけない感じがした。市民協働モデル事業は、いち早く実現されたらいいと思う。

### 【事務局】

全体会の日程は、各部会の幹事の予定を中心に日程調整を行う。決まり次第連絡する。振り返りシートは1週間をめどに政策推進課に提出してください。よろしく申し上げます。本日はありがとうございました。